

他

人のポイ捨てを、何故拾わなければいけないのだろうか」ごみ拾いボランティアに参加する度に、心で不満をもらす私がいいた。

しかし、ある時、次の質問が頭をよぎった。「私も、自動車に乗るとき、排気ガスというポイ捨てゴミを出しているではないか。それは最終的にどこに行くのだろうか。誰がどんな気持ちでその面倒を見てくれるのだろうか」。

排気ガスには、浮遊粒子状物質（SPM）や、窒素酸化物や硫酸酸化物等が含まれている。これらは、吸着・分解等されて、天と地に還っていくのだろうか。最終的に、自分のポイ捨ての面倒を見てくれるのは、吸着・分解を司る微生物ではないか。

本物のお酒づくりへの格闘を表した『発酵道』の中で、寺田啓佐氏は、発酵を司る微生物たちの世界は「共生の世界、仲よしの世界、感謝と報恩の世界」と仰っている。「自分の出番になったら大いに働き、…役目が終わったらスーッと消え…次に来る微生物に、バトンタッチをしていく」というのである。すると、私のポイ捨てを見てくれる微生物も、「ありがとう」と言いながら、喜んで面倒を見てくれているのではないだろうか。微生物の世界を見習いたいと心から思った次第である。

ところで私の研究室では、中国人の研究助手である安婷玉博士が中国建設労働市場の持続可能な発展の研究に取り組んでいる。安氏によれ

各 人 各 説

地球標準と宇宙標準の誇りを

高知工科大学マネジメント学部教授

渡邊法美

Tsunemi Watanabe



ば、中国の元請企業は、現場施工の際、下請企業に対して、過剰な施工資源を要求する。下請は、元請の過剰な資源要求を見越して、少なめに資源を提供する。元請は、その対策として、さらに過剰な要求を行う悪循環が存在する。元請の過剰な資源要求と、下請の過剰な資源提供の組合せは、ゲーム理論で言うところの均衡解を形成している。この悪循環から抜け出すのは容易ではない。そのためには、日本の互助会などの長期的取引関係が、中国でも大いに参考になる、と言うのである。

元請企業は専門工事業を信頼して正確な資源要求計画を作り、専門工事業は元請に感謝、信頼して計画通りに資源を提供する。元請企業はそのことに感謝して、次回も正確な計画を作る。この日本ではごく当たり前の感謝と信頼の好循環は、微生物の世界そのものではないか。

日本の建設界には、微生物にも勝るとも劣らない「共生・仲よし・感謝と報恩の世界」が存在する。確かに、この方式は国際標準ではない。しかし、微生物界まで視野を広げると、日本のやり方は「地球標準」なのである！さらに、先ず他者を慮る方式は、仏教の「大乘」の精神にもつながる。日本の方式は、「宇宙標準」でもあるのではないか！

「地球標準」、さらには、「宇宙標準」を持つ幸せを噛みしめ、そのことに誇りを持ちながら、困難を乗り越えていきたいと思う。